PSL 校正について

PSL 校正の方法を記載いたします。

＊ PSL 濁度標準液は 100 度標準液(品目コード：143D039　2009 年 6 月現在)が販売されております。100 度以上は PSL 校正が出来ませんので、100 度以上のサンプルは希釈して測定を行ってください。

また、校正をされる際に PSL 濁度標準液 100 度を 4 倍に希釈をした 25 度の PSL 濁度標準液を使用いたします。

PSL で校正をされた場合、下記の部分が異なります。

- 3.6.3　濁度計の校正（2100P 取扱説明書　P32～38）
- 測定値の単位が NTU と表示されますが、度と読み換えて下さい。

東亜ディーケーケー株式会社

校正方法

以下の標準液等を用意してください。

- **精製水(蒸留水等)**
- 25 **度** PSL **標準液**(100 **度の** PSL **標準液を** 4 **倍希釈した溶液)**
- 100 **度** PSL **標準液**
- 800NTU StablCal **バイアル**(2100P **の標準付属品です。**)

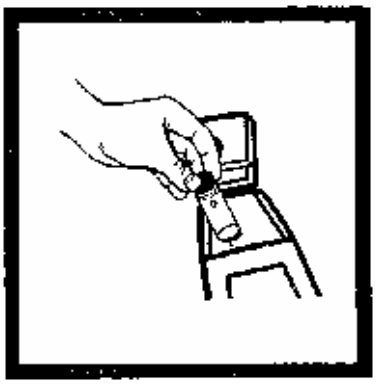
＊ 正確な結果を得るために、測定を同一のサンプルセルかマッチングしたサンプルセルで行い、位置付けした印をセル室正面の印と合わせます(2.3.4 **参照**)**。**

＊ 精製水に気泡を巻き込んだ場合は、測定前に 10～15 **分静置して下さい。**

＊ 各標準液は 2～3 **回逆さにし、その後** 2～3 **分静置してから測定します。**

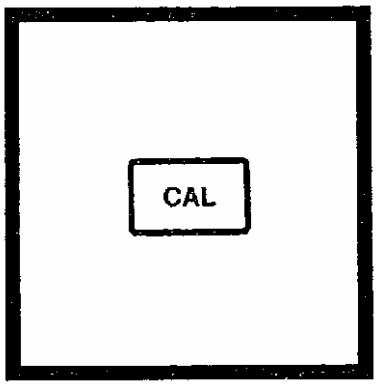
1）サンプルセルを精製**水でよくすすぎます。サンプルセルの標線まで**精製**水を入れます(約** 15mL)**。**

注：標準液の準備で使用した精製水と同じ物を使用します。
サンプルセルを振とうして、気泡を巻き込まないようにして下さい。

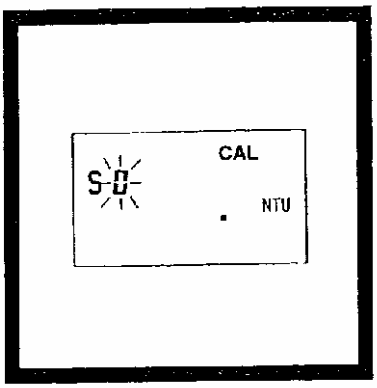


2）サンプルセルを位置付けした印がセル室正面の印と合うようにセル室にセットします。セル室のカバーを閉じます。 **キーを押します。**

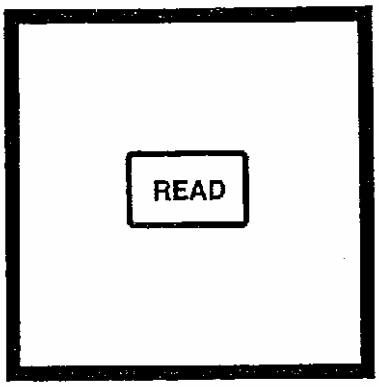
注：CAL **キーを押す前に指示値平均モードの選択**(ON/OFF)**を行ってください。校正モードでは** SIGNAL AVERAGE **キーは機能しません。**



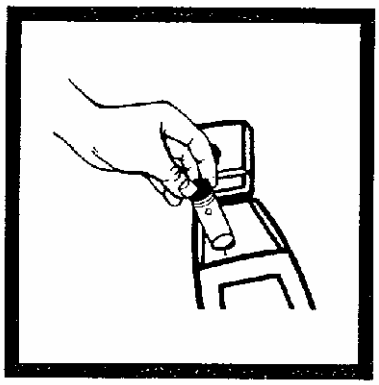
3）CAL キーを押します。



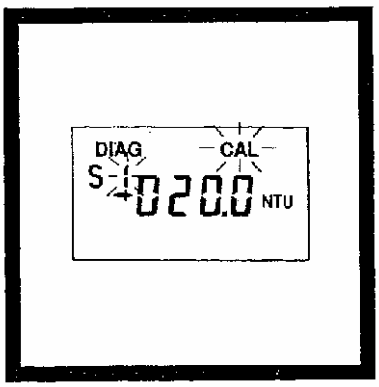
4） “CAL”と“S0”が表示されます(0は点滅します)。



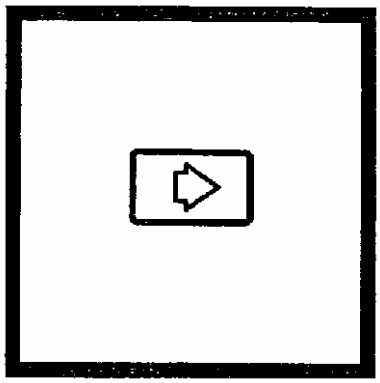
5） READ キーを押します。
60～0 まで(指示値平均モードでは 67～0)カウントし、ブランク値を測定して指示値の修正に使用します。精製水の濁度が 0.5 度以上ですと校正終了時に E1 のメッセージが出ます(詳しくは 3.6.2.2 参照)。表示は自動的に次の標準液校正に進みます。
サンプルセルをセル室から取り出します。



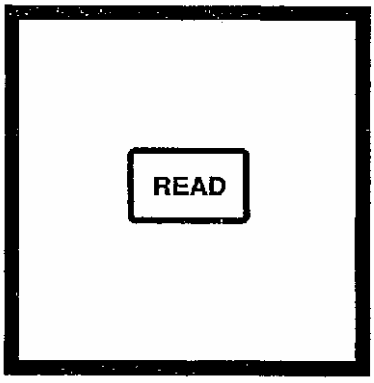
6） PSL25 度の標準液をよく攪拌し、きれいなサンプルセルの標線まで入れます。サンプルセルをセル室にセットします。セル室のカバーを閉じます。



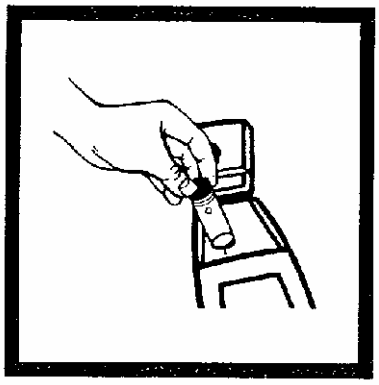
7） ディスプレイに“S1”が表示され(1は点滅します)、“20 度”の初期設定が表示されます。



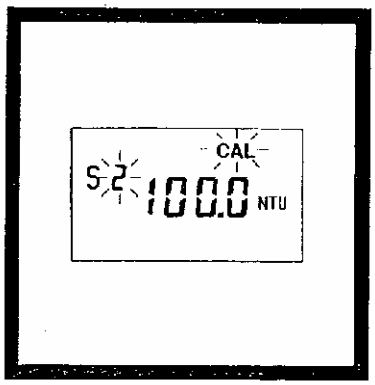
8） ⇨ キーを押して指示値を修正します。S1 標準液としてPSL25 度を使用しますので指示値を 25 度に修正します。キーを押すと 1 の点滅が止まり、ディスプレイの一番左の桁が点滅します。 ⇧ キーで値を修正し、 ⇨ キーで次の桁にカーソルを移します。同様にして値を修正します。



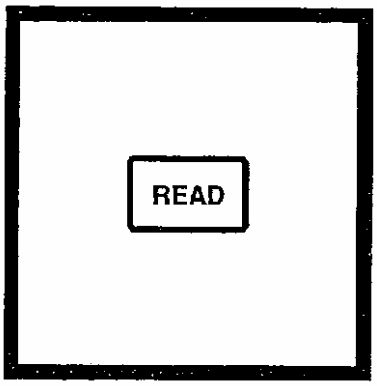
9） 修正が終了したら READ キーを押します。60～0 まで(指示値平均モードでは 67～0)カウントされ濁度測定後メモリーされます。
表示は自動的に次の標準液に進みます。サンプルセルをセル室から取り出します。



１０） PSL100 度の標準液をよく攪拌し、きれいなサンプルセルの標線まで入れます。サンプルセルをセル室にセットします。セル室のカバーを閉じます。

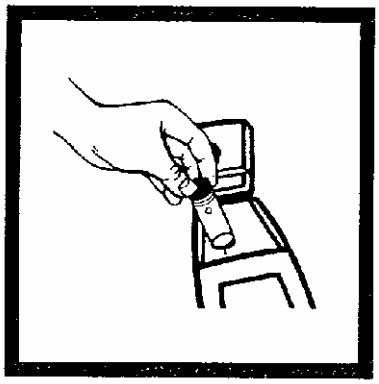


１１）ディスプレイに“S2”が表示され(2は点滅します)、“100 度”の初期設定が表示されます。値がずれている場合は、 ⇨ ⇧ キーで値を修正し、100 度にします。

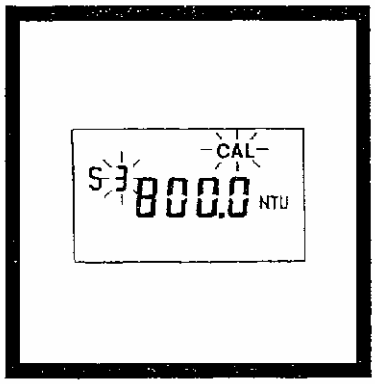


１２） READ キーを押します。60～0 まで(指示値平均モードでは 67～0)カウントされ濁度測定後メモリーされます。

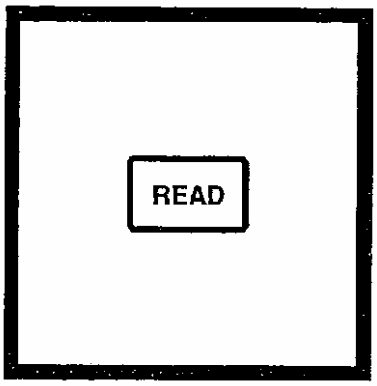
表示は自動的に次の標準液に進みます。サンプルセルをセル室から取り出します。

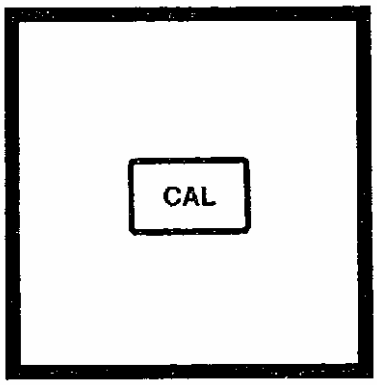


１３） StablCal 800NTU 標準液をよく攪拌し、セル室にセットします。セル室のカバーを閉じます。



１４） ディスプレイに“S3”が表示され(3 は点滅します)、“800 度”の初期設定が表示されます。値がずれている場合は、 ⇨ ⇧ キーで値を修正し、800 度にします。





１５）　READ キーを押します。60～0 まで(指示値平均モードでは 67～0)カウントされ濁度測定後メモリーされます。

　表示は“ S0 ”に戻ります。サンプルセルをセル室から取り出します。

１６）CAL キーを押します。

新しい校正データがメモリーされ、本体は測定モードに戻ります。以後の測定には新しいデータが使用されます。

注：この操作で校正は完了します。

校正途中でエラーがあると、CAL　キーを押した時にエラー・メッセージが出ます。E1 または E2 の表示が出たら標準液を確認し、校正をやり直してください。

“ CAL？ ”の表示は校正の途中でエラーがあったことを示します。

“ CAL ”表示が点滅している場合は校正が不適切な為、初期設定の校正データが使用されていることを示します。

　何度か PSL 校正を行っても“ CAL？ ”のエラーが出る場合は、散乱光増幅器の出力が弱い場合があります。その際には、P56　4.3.11)の方法に従って出力を 2.5V～2.8V になるように調整を行ってください。